

1 水稻粳新品種「ふくみらい(福島1号)」の育成

福島県農業試験場 育種班
平成12年度農業試験場試験成績概要
分類コード 01-01-03000000

部門名 水稻－水稻－育種・選抜
担当者 斎藤真一・佐藤弘一

I 新技術の解説

1 要旨

(1)育成経過

「ふくみらい(福島1号)」は1991年、福島県農業試験場において、「中部82号」を母、「チヨニシキ」を父として人工交配し、育成された品種である。

(2)特性概要

「ふくみらい(福島1号)」は出穂、成熟期が「ひとめぼれ」よりやや遅い“中生の晩”に属し、やや短稈の“偏穂数型”品種である。いもち病真性抵抗性遺伝子が“Pia”と推定され、圃場抵抗性は葉いもちが“中”、穂いもちが“やや強”である。耐冷性は「ひとめぼれ」並の“極強”である。耐倒伏性は「ひとめぼれ」より強い“やや強”である。

(3)品質および食味

玄米は「コシヒカリ」並の中粒で、年次により乳白米が発生するが、光沢が良好で良質である。食味は「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」より粘りがやや劣るが、「農林21号」より優る“上の下”である。

2 期待される効果

「コシヒカリ」への作付集中の緩和、中生品種の整理集約。

3 適応範囲

県内平坦部および山沿い地帯、「農林21号」、「チヨニシキ」、「初星」対象。

4 普及上の留意点

- (1)いもち病抵抗性は十分ではないのでいもち病の発生には留意する。
- (2)乳白米の発生を助長するような極端な多肥栽培は避ける。

II 具体的データ等

系統名		福島1号		交配組合せ		中部82号／チヨニシキ	
特 性		長所 1.耐冷性が極強である。短所 1.年次によって乳白粒の発生が見られる。 2.コシヒカリなどに比べ いもち病抵抗性が強い。 3.コシヒカリなどに比べ 耐倒伏性が優る。					
普及見込面積		1,000 ha（平成15年度）					
調査地		福島県農業試験場（育成地）					
調査年次		1995年～2000年					
系統名・品種名		福島1号	ひとめぼれ	コシヒカリ	農林21号	チヨニシキ	
早晚性		中生の晩	中生	中生の晩	中生の晩	中生	
草 型		偏穂数型	偏穂数型	中間型	穂数型	中間型	
出穂期(月日)		8.14	8.11	8.20	8.16	8.12	
成熟期(月日)		9.25	9.24	10. 2	9.29	9.25	
稈 長 (cm)		81.2	86.2	92.2	93.2	84.0	
穂 長 (cm)		17.7	18.0	17.0	15.8	18.2	
穂数 (本/m ²)		458	485	424	486	425	
芒の多少・長短		少・短	稀・短	無	無	極少・短	
ふ光色		黄白	黄白	黄白	紅	黄白	
穎 色		黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	
脱粒性		難	難	難	難	難	
耐倒伏性		やや強	やや弱	弱	弱	強	
耐冷性		極強	極強	極強	弱	やや強	
穂莢穿性		難	難	難	中	やや難	
耐病性	追伝子型	<i>Fia</i>	<i>Fii</i>	+	<i>Fia</i>	<i>Fia</i>	
	葉いもち	中	やや弱	弱	弱	強	
	穂いもち	やや強	やや弱	弱	弱	強	
玄米収量(kg/a)		62.3	61.2	55.7	54.1	63.6	
収量比率(%)		102	100	91	88	104	
玄米千粒重(g)		22.2	22.7	22.11	21.9	23.7	
玄米品質(1～9)		5.3	4.8	4.68	5.7	4.8	
食 味		上下	上中	上中	中上	上下	

※ 生産力検定予備試験(95～96年)、生検本試験(97～2000年)標肥、6カ年平均

Ⅲ その他

- 1 執筆者: 斎藤真一、佐藤 誠
- 2 主な参考文献・資料: なし